

第4回須坂市部活動地域移行検討協議会議事録

○ 日時 2023年12月19日(火)16:30~18:00

○ 場所 旧上高井郡役所2階多目的ルーム

○出席者

【協議会委員】17人

【オブザーバー】1人

【事務局】5人

○欠席者 【協議会委員】2人

全体進行 学校教育課長

1 開 会

2 あいさつ 教育長

検討会も4回目を迎えました。

部活動の地域移行で目指す姿というのは、少子化の中でも、将来にわたって子どもたちがスポーツとか、文化芸術とか、あるいは情報科学の分野、これに継続して親しむことができる機会を確保すること。これがやはり大事だと思っています。

そして、そのことが学校の働き方改革を推進し、学校教育の質の向上にも結びついていくものと私は考えています。

部活動の地域移行には、これまでも皆様方に関わっていただいておりますが、課題がたくさんあります。ただ、地域移行そのものが目的ではなくて、地域移行というのは一つの手段です。

子どもファーストで考えるなら、今回のアンケートを見て思ったことですが、子どもたちは自分の興味関心の広さに限界があります。大人から見ればもっと面白くてわくわくする、あなたに合ったものがたくさんあるということを知らせてあげたい。そういう気持ちが今日の話し合いでも湧いてくると思います。

また、私達はあくまでも子どもファーストを貫きたいと思いますが、実はこれがなかなか難しいと思います。子どものためというのはよく聞く言葉であります。それぞれの指導者や関係の大人たちが各自それぞれに思い描き、子どもたちのために活動をしていると思います。これは大変ありがたいことですが、今、私達が知恵を出し合わなければならないのは、何を子どもたちのためにするかということだと思います。何を子どもたちのためと考えるか

ってということです。私達はそこを大事にしながら、この協議会を進めていきたいと思えます。

実はこの協議会が始まってから、いろいろな国のスポーツや文化芸術と子どもたちとの出会い方を研究したりしてきました。例えば、日本と同じような課題を解決しようとしたデンマークのサッカー協会には、指導者向けの10カ条というものがあるそうです。その10番目に「コーチは子どもを教え導くことはできる。しかし、勝つことが大切か否かを決めるのは子どもたち自身だ。」という言葉です。

今日は、これからアンケート結果を見ていただきますが、子どもたちの声に耳を傾け、どんな活動を提案してあげられるか皆様方のお知恵をお借りしながら考えてまいりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○新委員3名の自己紹介

常盤中学校保護者会代表

墨坂中学校保護者会代表

東中学校保護者会代表

3 議事(座長進行)

(1)部活動地域移行に関するアンケート結果について

資料1-1 須坂市部活動地域移行に関するアンケート結果(小学校5・6年生)

資料1-2 須坂市部活動地域移行に関するアンケート結果(中学校1・2年生)

資料1-3 坂市部活動地域移行に関するアンケート結果(小学校5・6年生保護者)

資料1-4 須坂市部活動地域移行に関するアンケート結果(中学校1・2年生保護者)

資料1-5 須坂市部活動地域移行に関するアンケート結果(小学校教職員)

資料1-6 須坂市部活動地域移行に関するアンケート結果(中学校教職員)

以上について、別添アンケート結果に基づき部活動地域移行コーディネーターから説明した。

(2)部活動地域移行への課題等への対応について

①学校部活動の地域移行への課題等について

これまでの協議会で出された資料、意見等に基づき、地域移行への課題について部活動地域移行コーディネーターから説明した。説明の概要は次のとおり。

ア 少子化の現状について 人口移動調査では須坂市の2023年4月1日現在の0歳児は283人(現在の中学生の生徒数は1学年約420人)

イ 学校部活動の現状と課題について

- ・合同チームによる大会参加が毎年増えている。
- ・休日の部活動や大会引率などが教員の長時間勤務の一因となっている。
- ・6割の教員が専門外の運動部活動を指導している。
- ・部活動の種目の減少で生徒の希望に応えられない状況が出ている。

ウ 学校部活動の地域移行に向けた課題について

- ・部活動の教育的意義をいかに継承するか。
- ・部活動に代わる地域クラブの運営主体、受け皿となる団体をどうしていくか。
- ・指導者の確保、研修、中学校の先生との情報共有、指導者への謝礼をどうするか。

エ 保護者負担について

- ・保護者負担増への支援の検討
- ・会場への送迎の支援の検討

オ 地域移行後、クラブ活動を実施する上での課題について

- ・地域クラブ活動種目毎の拠点施設をどこに置くか。
- ・部活動の良さは同じ学校の仲間と活動ができること、その継承をどうするか。
- ・子どもたちたちのニーズをしっかりと踏まえてどのように先進的な取り組みをしていくか。
- ・楽しみたい生徒、競技の技能を高めたい生徒、双方のニーズにどう応えるか。
- ・緩い部活についての検討
- ・伝統的な文化を体験できる総合文化部のような活動の検討
- ・自主性・主体性を最大限に尊重した地域クラブ活動の検討

②千曲市教育委員会(千曲坂城クラブ)視察の概要について

第3回須坂市部活動地域移行検討協議会で行った千曲市教育委員会の視察の概要について部活動地域移行コーディネーターから次のとおり報告した。

- ・設立 令和5年3月 千曲坂城クラブ設立
- ・千曲坂城クラブの基本理念

すべての子どもたちにスポーツ文化芸術活動ができる環境を保障する。

- ・組織編制 15の専門部があり、専門部の下に中学校毎の班がある。

- ・月1回の地域クラブ活動から始めている。令和7年度に全ての休日部活動を地域移行する予定
- ・平日に指導できない人が多いのが課題。検討チームを作って検討している。
- ・会費は年3000円、うち保険料が800円。指導者の謝金は1時間当たり900円
- ・指導者研修はオンラインで実施。医療関係者などコンディショニングサポートスタッフの方に頼んで実施している。
- ・財源の確保が課題で、今賛助会員を募集している。いろいろなところへ伺ってお願いしている。

③部活動の地域移行を今後検討する上での共通認識事項について

今後検討する上での共通認識事項について、ガイドラインを基に部活動地域移行コーディネーターから次のとおり説明し、確認した。

ア 部活動地域移行の目的

- ・スポーツ・文化芸術活動に継続して親しめることができる機会を確保する。
- ・多様なニーズに応えるため、持続可能で多様な環境を整備し体験機会を確保する。

イ 部活動地域移行の環境整備に向けて

- ・まずは休日の部活動の移行ができるように着実に推進する。
- ・平日の環境整備はできるところからやっていく。
- ・市町村や地域団体が運営団体となる体制など、段階的に体制の整備を進めていく。
- ・令和5年度から7年度までの3年間で改革推進期間として取り組む。

④学校部活動地域移行への検討事項について

今後の学校部活動地域移行への検討事項について、部活動地域移行コーディネーターから次のとおり説明した。

ア 地域クラブの目指す姿について

イ 地域クラブの運営主体・運営方法について

ウ 指導者の確保について

エ 指導者への謝金について

オ 会費について

カ 経済的困窮者への支援について

キ 活動場所への移動手段について

アについては、これまでの議論やアンケートの結果、先進視察の結果などを受け、どういったことを大事にしていくか今回意見を出し合っていた。

イについては、どこが(誰が)地域クラブの運営主体となればよいか検討していただく。

ウからキについては、本日、何かご意見があればお聞きし、今後の検討につなげていく。

⑤地域クラブの活動の運営に関する検討事項について

次のアからクまでの8点は、実際に地域クラブを運営していく上での検討事項で、来年度以降、しっかり検討していきたい旨、部活動地域移行コーディネーターから説明した。

ア 学校部活動の教育的意義、良さの継承について

イ 指導方法について

ウ 指導者研修について

エ 心身のケア等のためのコンディショニングスタッフの配置について

オ 活動場所(施設)について 休日の学校施設の優先利用、休日の校舎内の使用

カ 楽しみたい、競技技能を高めたい等、異なるニーズへの対応について

キ フリースポーツ部、総合文化部、伝統的な文化を体験する部活、ゆるい部活、自主性主体性を尊重した活動をする部活などの設置について

ク 地域クラブ活動運営に対する経費について

{部活動地域移行への課題等への対応についての議事}

(座長)

ガイドラインでは、地域クラブが休日のみ活動する場合も、原則として1日の休養日を設定するとしているが、中体連では、土日しか練習できない地域クラブは、平日活動していなければ中体連の大会に参加できることになりましたので補足説明します。

それでは本日の検討事項ということで、部活動地域移行の課題への対応について考えていきたいと思います。最初に地域クラブの目指す姿について考えていきたいと思います。

実はここで陸上競技の地域クラブの試行が始まろうとしています。その目指す姿について、指導を行うA委員から話をお聞きしたいと思います。

(A委員)

地域クラブの名前は「須坂アスレチッククラブ」という名前で進めようとしています。

クラブのグランドデザインは一番大事で、子どもたちを中心にどのように活動をしていくかという共通認識の地図です。中学校の部活動のグランドデザインをリニューアルして作りました。部活動で10年以上にわたって実践してきたものをリニューアルしているので、現場に合っていると思っています。

(グランドデザインの内容について説明)最初に目標ですが、シンプルに何を目指すかということで、「仲間とともに運動やスポーツが好きになる。」としました。

元々運動やスポーツとは何かということですが、種目によってはどうなのかはありますが、簡単に言うとスポーツは遊びの中から出てきていて、競争や勝敗を楽しむ遊びという考え方があります。これは自分が大学のときに学んだことなのですが、非常に感銘を受けました。なぜかという、それまでの自分自身の競技歴とは全く逆だったからです。

それまで成績を上げなければならない、活躍しなければならないと思い競技を続けてきた。教員として働いてからも何のためにやるのか矛盾感を抱え、子どもに教えたり、自分で競技をしたりしていたが、ある中学校に赴任したとき、このままでは良くないと思いました。

子どもたちは、やりたいからやっている。何も一等賞を目指すためにだけやっているのではないと思い、それからこれまでずっと同じ思いで活動をしてきています。

自分としては、楽しむにはやはり遊びというかそういう自由なことが必要だと思う。

我々指導者がスポーツって何かという根源的なものを身につけておかないといけないと考えています。

2番目に「陸上競技の特徴」についてグランドデザインに入れました。数年前に出された日本陸上競技連盟で作成した「指導の手引き」を参考にしています。

陸上競技は他のスポーツと少し違うところがあり、一つには、人間の基本的な運動を基礎として構成されたスポーツなので、生涯にわたって個人のレベルで楽しめる。

もう一つは、年齢的に遅めでベスト記録が出る傾向がある。

三つ目の特徴として、トップの選手たちは、小さいころに何をやっていたか全国的に統計を取ってみると、運動遊びをやっていたことがわかる。また、意外と小中学生の時に全国大会の経験者が少ないということです。

この陸上競技連盟の「指導の手引き」は、競技会は多い、小さいうちからどんどん専門種目で出場し、レベルが上がりすぎる傾向があるが、高校で競技をやめてしまう、記録が伸びなくて困っている子どももいる。そんな状況の中、全国中学校に配布されたものなので参考になっている。

次に3番目に「陸上競技者の育ち方と楽しみ方」をグランドデザインに入れました。中学生は陸上競技を始め、競技会に参加する時期となります。

4番目にグランドデザインに入れたのは「課題となっていることを解決するにはどうしたら良いか」ということです。

陸上競技の課題解決の1点目ですが、走、跳、投の複数種目を十分楽しむことです。高校で専門的に始めても良いぐらいで、もっと言うと、高校から陸上を始めても良いイメージです。

2点目として、陸上競技以外のスポーツを楽しむことです。

3点目として、自発的に運動遊びなどしてみんなで楽しむ。障害物競走やサーキットなど各種やることです。

4点目として、発育発達の個人差が大きいので、順位や成績にこだわらずに自分の伸びを楽しむことです。

最後にクラブの主な活動方針をグランドデザインに入れました。

①運動やスポーツを通して、中学校生活が明るく健康的で豊かに過ごせるための援助をしていく。

②最大3時間以内(原則2時間)で、生徒の成長段階を見極めながら、短時間で効果的な活動を目指す。

③出場競技会は、保護者・本人と相談して精選できるように助言していく。

④中学卒業後も陸上競技を続ける意欲があり、より高いレベルの願いのある生徒には、専門的なアドバイスと援助をしていく。また心の疲れについても、適切な助言をしていく。

⑤指導者は、達成したい目標に向かっていくための援助をする。

これらを今のところ考えています。

これを指導者がしっかりお互い全部理解をした上で、ベースとして持って、子どもたちに接していく。どうしてもみんなそれぞれの考えから自分の経験で指導をしてしまうので、そう思っています。

こういった地域クラブの活動を生徒たちがどのように考えているか合同練習に参加した生徒に聞いてみました。市内の中学校3校が合同部活動に来ていたので聞きました。

一つは、地域クラブの活動も今までの合同練習の形が良い。専門的な指導を受けたい人だけで別日に活動するということはあまり希望しない。

二つ目として、より専門的な練習は、今までやっていたようにみんなで活動する中で自分の意識の持ち方でできると言っていました。これにはびっくりしました。同じことをやるにしても、自分の意識の持ち方一つで、高いレベルを望めると言っていました。

以外だったので、別の日に上のレベルを求める人たちだけで活動したほうが良いのではないかと提案したら、いつでもコーチ等に相談に乗ってもらえるし、自分の目標について対応してもらえるから、大勢の仲間ワイワイやる方が良い。と言っていました。

もう1点は、最近、中体連の方で細則が変わったのですが、共通リレーで自分は出場したいが、自分たちの学校だけでは人数が少なくて出場することができない。

だから、もし来年この地域クラブが正式に発足して、クラブ所属の他校の仲間と組んで出場できるという意見が2人からありました。

現在このような状況で、今週末に第1日目の試行を迎えます。なお、小布施中学校もこれまで複数回にわたって合同練習に来ていて、23日(試行の第1日目)も、要望があって9名で行きたいという希望があり、参加することになっています。須坂市を中心にしてやっている活動が、高山村や小布施町にも広がっていくと良いと思っています。

(座長)

部活で顧問が一人だけだとなかなか指導が行き届かないこともあるが、試行する地域クラブは、短距離、長距離、跳躍、投擲とコーチが4人そろいまして、専門性のある指導が始まると思います。

説明のあった活動方針の1点目、「中学校生活を明るく健康的で豊かに過ごせるための援助をしていく」というのが一番の大前提だと思います。

(A委員)

そうです。部活動の地域移行の一環で実施しているので、まずは中学校生活が最優先で、そのことを理解して、子どもたちが学校生活を明るく元気で過ごすための援助をする考えです。

(座長)

何か意見はありますか。

無いようですので次に進みます。何かあれば最後にお聞きしたいと思います。

次に地域クラブの運営主体について説明をお願いします。

(3)地域クラブ活動の運営主体について

部活動地域移行運営形態のイメージをスポーツ庁の「運動部活動の地域移行等に関する実践事例集」より、市町村運営型、地域スポーツ団体運営型について説明し、その他の類型として、地域によっては、スポーツ少年団や競技団体、クラブチーム、フィットネスジム、大学など運営主体となる場合もある旨、部活動地域移行コーディネーターから説明した。

{地域クラブ活動の運営主体についての議事}

(座長)

今、長野県中体連の方では地域クラブを2種類に分けていまして、一つは民間事業者等が行う地域クラブです。もう一つが、市町村が主導し、学校部活動の代替として行われる地域クラブ活動です。千曲坂城クラブは、市町村が主導しての地域クラブです。

須坂は運営主体をどうするかこれから議論するのですが、次回、決定するというので、今日のご意見をいただきたいと思います。

(B委員)

いろいろな実施主体があると思うが、地域クラブを運営するには、須坂らしさを出していければ良いと思う。また、先程、A委員が言ったように須坂だけというより、上高井で考えることも大事と思う。

アンケートの小中学生の回答を見ると非常に前向きな捉え方をしている。部活でこういうことをやりたいという考えがあり、そういったものを受け止める組織なので、受け止める仕組みが先ほどA委員が説明したグランドデザインのようなのであれば、いろいろなスポーツや文化芸術により良く関わっていけるのではないかと思う。地域クラブではどういうものを目指していくかを考えていく中で、どこが実施主体であるのが良いのかを考えるのが自然にいくと思う。経費の面とか責任分担とか難しいところはあるとは思いますが、それが一番大事なことと思う。

(C委員)

今はまだ考えが漠然としている。

子どもたちが主体で喜んで活動できるようにその活動を支援するにはどうするかということですが、10月に視察した千曲市はかなり進んでいると思った。

それを参考に須坂も検討していくわけですが、例えば、送迎バスやタクシーを千曲市は実施していた。須坂市も同じようにやるとすれば、保護者が負担するのか、市が負担するのか、そういったことも気になっているところです。

アンケート結果を見ると茶道、華道、そういうものをやりたい子どもがいるので、取り入れられれば良いと思っています。このアンケート結果は、事前に目を通して、今日は説明を聞いて、理解はできたが、この結果を受けてこれからどうしていくのが良いのか、今はまだ何とも言えない状況です。

(座長)

送迎のことは課題だと思っている。今後検討していきたいと考えている。

(D委員)

運営主体をどうするかというのは責任を伴うので難しい問題だと思う。

千曲坂城クラブは、教育委員会で動いて、そこから今の千曲坂城クラブがあると聞いている。運営主体をどうしたら良いのかは、私もわからない。いずれにしてもお金が絡むことになるので議会とかそういうところへも折衝できるような立場の人が主体になったほうが良いのではないかと思う。

(E委員)

運営については、文化系は種類が多岐にわたっている。

それを一つ一つクラブとして独立させて、運営するとなるとすごく大変なことになるし、管理する市町村でも大変だと思う。

現実的なことを考えたときには、市町村の方で例えば文化クラブみたいなのを作っておいた中で、分野を分けて、そこへ指導者を入れていくような形を作っていただくと整理できるのではないかと思う。

例えば吹奏楽で考えれば、指導者がトップにいて、その運営を全部やっていくとなるとすごく大変になってしまう。運営の雛形みたいなものを作っていただいた中で、それに合わせて今各団体が動けるようなやり方だと一から全部作っていくよりは、非常にやりやすいのではないかと思う。

(D委員)

お金も関係するということで、他のクラブチームの事例ですが、面白いと思ったので、話をさせていただきます。

バスケットボールのクラブチームですが、チームのTシャツに、協賛金をいただく中で、保護者の方が運営する会社の名前を入れたそうです。そうしたらそれを見た別の企業の方から同じようにしたいということで、今度それを資金にユニフォームも作れるのではないかという話をしていました。

いろんな発想が必要で、なかなか良いと思い、根本的な話と違うのですが紹介しました。

(教育長)

今日、資料で出してもらった子どもたちと保護者と先生方のアンケートは、非常に大事な私達の根拠になるものだと思っています。

本当はこのアンケートから読み取った私達の解釈をみんなで語り合うと、いろいろな新たな課題やこういうことを須坂の子どもたちが大事にしているということが実感できると思います。

アンケートの資料が1の1から6まであり、なかなか頭が整理できないのですが、小学校と中学校の子どもたちが共通して願っているものは何なのかとか、専門性を高めたいという子どもたちもいれば、もっとみんなと友達になることが大事だと思っている子どもたちもいる。いろんな意味での子どもたちの意識、保護者の認識、先生方の意識について、みんなで意見を出し合っていく中で、いわゆる私たちが目指すものが決まってくると思う。

今、A委員が話してくれたことも、実はその中の大事な枠の中に入ったご発言だったと思います。また、C委員が話されたとおり運営形態そのものを今考えるのは、なかなか難しいと思います。ヒントはこのアンケートの中にあるのではないかと思います。

このアンケートを大事にしながら、次の第5回目にこれを土台にしながら話を進めたらどうかと思いました。以上です。

(4)その他

次のとおり部活動地域移行コーディネーターから説明し、閉会した。

①休日部活動の地域移行試行について

第1回 12月23日(土)8時から10時 東中学校体育館 種目は陸上競技
参加希望者62人 指導者は4人で実施する旨説明

②次回日程について

2月中旬を予定。日程調整し通知する旨説明